

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300246		
法人名	有限会社 ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム 東栄の家 (1号館)		
所在地	愛知県北設楽郡東栄町大字本郷字久保田10-7		
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2376300246-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2376300246-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	平成30年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム東栄の家は国道151号線沿いとても解りやすく周辺には商店街や保育園 イベント広場などがあり大変立地条件が良いのかな所にあります。また、駐在所や消防署も近くにあり安心できる環境です。利用者様はほぼ地元の方が多く、住み慣れた地域でのんびりとその人らしい生活が送れるように支援をし、利用者様に寄り添い安心、満足できることが一番だと考えています。また、職員も地元の人や勤務年数が長い人が多く利用者様やご家族様との信頼関係を築きながらより良い施設を目指すと共に外部、内部の研修に参加して、個々にスキルアップできるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「(経済的負担等から)キーパーソンが移設をすと言っても止めて欲しい」と事業所に頼む近親者がいたり、家族アンケートには「此処に入りたいという高齢者は多いと思う」という記述があったり、家族がファン化していることが覗える事業所です。『おいでんや』と呼ばれる地域の高齢者支援の集会、東栄町発祥のチェーンソーアート大会や町の文化祭観覧、移動動物園、演芸ショー、町民の芸能まつり等、地域の事業や行事は豊富で、壮健な利用者は多様な集いへ気軽に顔を出すことができます。リビングに1歩足を入れた瞬間にラポールが感じられるほど利用者間の一体感があり、お互いをいたわる気持ちが垣間見えて居心地のよい事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちが作った理念「ゆったりと楽しく」「自由にありのまま」「仲間と一緒に暮らす」そんな理念を元に、まずはゆったりと生活できるよう共有し実践につなげています。	理念は平易で一見成果が掴みにくいものですが、結果に結ばれていることは利用者の様子に十分現れています。職員は利用者のリズムを合わせる事が自然にでき、また「役割を感じてもらおう」を総意としていて、そのような取組みから理念の実現が進んでいるものと受け留められます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物や外食、地域のイベント等に利用者さんと一緒に出掛け交流している。畑仕事の際に近所の人達と会った時は挨拶を交わしたり会話をしています。	東栄町発祥のチェーンソーアート大会や町の文化祭観覧、移動動物園や演芸ショー、町民の芸能まつり等、地域行事には欠かさず出かけています。クリスマス会には園児が演舞を披露してくださるので、御礼に利用者が菓子を手渡すことは恒例となり、楽しみの一つとしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で様々な取り組みや支援等の内容を説明し、理解を頂いている。ホームの新聞「ありのまんま」で活動内容を発信したり、状況の変化がある場合には個別に不定期でお便りを入れています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の条例により3ヶ月に1回の運営推進会議でしたが広域連合になり2ヶ月に1回の会議の場で運営状況を報告し、意見を聞きます。また、そこで出た貴重な意見等サービスの向上に努めています。	家族、地域、行政と顔ぶれを揃え「地元高校生の就職先として職業体験をしてもらったら…」といった進言もあります。これまでは保険者(町)の参酌基準適用によって年4回の開催でしたが、本年から三河広域連合が設置されたため年6回の開催として10月から仕切り直しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議等に協力してもらったり、メールなどの利用で密に情報交換をしています。	「入居、退去も都度報告を」と窓口に出向いており、町役場住民福祉課とは会話をもつ機会が多くあります。9月～10月の短い期間でも事業者講習、現任介護職員研修(看取り、福祉用具の2件)、他職種研修、地域まるごとケア勉強会に参加していて、学びを通じて厚い連携があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人体制以外は、特別な理由がない限り玄関やユニット間の施錠はしていない。AA課程(施設内研修)で身体拘束について学ぶ機会があり、拘束をしないケアに努めています。	本年の法改正に基づき身体的拘束適正化検討委員会を設置し、四半期での協議の場を設けています。6月と9月の2回既に実施され、知識共有を図っていることが議事録で確認できます。また現在身体拘束が必要となる症状の人はいません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ある内部研修(職員会議等)や本部から届く朝礼で虐待のことは勉強しています。虐待はあってはなりません。防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、内部研修等で学んだり、実際に活用されている利用者様もおられ、関係者とは連絡を取り合う状況にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が主に携わっていますが、説明を十分行ない理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、運営推進会議に参加して頂いたり、利用者様にも計画作成時等に意見を頂き、運営等に反映しています。	家族写真を撮って貼り出したり、大抵8割ほどが集まって賑わう家族会も実施されています。調査訪問時にも入れ替わり立ち代わり家族が訪れ、アンケートでは27名中23名の回収率の高さで、生真面目な地域性と温かな家族愛に事業所も支えられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館のカンファレンスの時間や職員会議の場で自由に話が出来よう環境作りをして、職員の意見も参考にし、業務等に活かしています。	10年選手も少なくない事業所で、先輩職員は皆新人職員に対して「できなくてあたりまえ」「長く一緒に働きたい」との想いを以て育てていることが、職員の言動でよく判ります。「休憩時間だよ」と同僚に促したり、休憩に入る前にはフロア全体に挨拶している姿に好感が持たれます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当の支援を行ない向上心を持って働けるよう対応を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に12回の内部研修があったり、他市町村等の外部研修にも積極的に参加できるように努め、いろいろな研修確保をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村等主催の研修に参加して同業者との交流をし、質の向上を図っています。また、多職種研修会にも参加し、ネットワーク作りをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け関わり支援することで安心が確保され信頼関係が築けるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築く家族との信頼関係は大変大切で初期には特に電話で様子を伝えたりご家族様の不安等に対応できるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	求めている必要な支援を見極めサービス提供し本人が安心した生活が送れるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で掃除や食器拭き、洗濯物干したたみ等の火事をしてもらったり行事作りの手伝いをしてもらっています。困ったことがあれば教え合ったり助け合ったりしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問された際には日々の様子を負担にならないように伝えたり情報を共有し協力をして頂きながら共に本人を支えていくかんけいを築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りや電話での会話ができるように支援したり面会の方と気兼ねなく居室で過ごせるように支援している。入居前に利用していた美容院やかかりつけ医との関係が途切れないよう支援しています	リビングに1歩足を入れた瞬間にラポールが感じられるほど、利用者の一体感があります。山間の暮らしの中で培ったつつましさ、相互扶助精神が個々に根付いているからか、お互いをいたわる気持ちが垣間見え、「此処にいることがすなわち馴染みなのだ」と受けとめることができます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く見守り情報を共有し、性格や個人の気持ちを尊重しながら利用者同士が無理なく関わり合えるように努めています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々電話や訪問があると退去後の様子を尋ねたり、気楽に相談して貰えるような関係作りをしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者さんの態度や会話の中から思いの把握に努めている。又、職員間で情報を共有し把握に努めています	食事中、職員が「ちょっと緊張しているんですよ」と、訪問調査者と食卓を囲む利用者を気遣ったりする場面もあり、職員に心配り、気配りがあるとともに、利用者同士の会話も盛んなことから、耳に入ってくる情報から把握することも少なくありません。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族から生活歴等聞き取りを行いカルテに個人情報として記入してあり把握に努めている。カルテに載っていないでも日常の会話の中からいろいろ教えてもらっています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態等は介護記録、申し送り、カンファレンス等で現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日常関わる中で希望や意向を聞き反映できるように努めている。計画作成日にはモニタリングを行い意見を交換しながら現状に即した介護計画を作成しています	ユニット毎に計画作成担当者を置き、介護計画書は3ヶ月毎に評価に取組み、見直しをおこなっています。職員は介護記録に日々詳細を付け、毎月のカンファレンスで意見を計画に反映させていて、家族もアンケートでは「(計画について)一緒に話し合っている」について100%です	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや個別の介護記録により情報の共有をしている。利用者さんの変化には職員の話し合いで対応等を検討しながら実践に活かし介護計画の見直しに役立てています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに合わせ、ご家族様の協力を得ながら外出や外泊を試みたり病院受診や買い物支援を行なっています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防等、地域の資源などを活用できるように連携をとっている。また、イベント行事への参加やボランティアや保育園等の来訪を受け入れ楽しく生活できるように支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った病院での受診を支援している。かかりつけ医の采配により適切な医療が受けられるよう、病院・事業所との関係作りもしています	協力医に変更した利用者は26名いて、従来のかかりつけ医を家族の通院介助で続けるのは1名のみです。家族が付添う協力医の通院は、事業所がお手紙(残薬、欲しい薬など薬情)を用意のうえ持参をお願いしていますが、家族が難しいとなれば職員が代行支援をおこないます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診に戸惑う時は協力委に相談をしたり、週に1回看護師が出勤する時に相談し、アドバイスを貰ったりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報を交換しながら早期の退院につながるよう病院関係者とは連絡を取り合い、密な関係作りをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してくると終末期の話、また今後の方針に関してはご家族様の気持ちを大切にしながら、今後の方針を共有しながら関係者にも相談し支援に努めている。	契約時には『看取りに関する指針』を提示して管理者が説明しており、家族も「医療が必要であれば此処で最期まで～」としています。週1回看護師配置があつて普段は健康管理をおこなっていますが、看取りでは職員のみでチームを形成しており、此処2年で2名のお見送りがありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に立ち会った職員も数多くおり、実践力は身につけている。また、応急手当も迅速に行ない、協力病院と連携して対応をしている。職員1名が応急手当普及員となり必要に応じて活動している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回職員の少ない夜間想定での避難訓練を実施し、消防署に内容や状況の報告をしている。署員にアドバイスを貰うこともある。防災訓練等に参加し、災害時に必要な体制を築く努力をしている	町役場から水害、土砂崩れは心配要らない土地であると聞いてから、年2回の法定訓練では『夜間想定火災』1本でおこなっています。以前には消防署の立ち合いを受け、「スプリンクラーが作動したら床が濡れて、楽には移動できなくなるよ」といった具体的な指導も受けています。	地域と災害時の連携をどうするのか、といったことを確認し合えるよう、まずは運営推進会議等身近な場を利用していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの名前呼び方、言葉使いや接遇については人格を尊重した対応に努めている。排泄の失敗等は他の利用者さんに気付かれないように又、本人も傷つけないような対応に心掛けています	脱衣スペースには牛乳パックを再利用して組み立てたタオル収納があり、そこには利用者の氏名があります。そういったものにはすべて「様」が付されていて、尊重への浸透が視えます。居室タオルの交換をおこなう前に「食事中、失礼します～」と一言断る職員の姿も垣間見ました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で本人の思いや希望を尋ねた時に言い表しやすいような雰囲気作りや心掛けたり自己決定ができるように働きかけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん一人ひとりのペースを把握しており無理強いくことなく気持ちを尊重し希望に沿えるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った物や本人の希望の服を選んだり髭、産毛剃り等身だしなみの支援をしたり化粧品や整髪料でおしゃれを楽しめるように支援している。行きつけの美容院で散髪や毛染めをしている方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて献立の中に取り入れたり食事会では普段食べれない物を一緒に作って食べたりしている。日曜日の昼以外は食器拭きの片付けをして頂いています	職員が手作りする献立は「美味しいよ」「うまく作るねえ」と利用者に誉めそやされ、食事介助が必要な人には職員が隣に着いて和気藹々とした雰囲気での食事風景です。「〇〇さん、いつもコレ観るでしょ(TV番組)。食べながら見てもいいんだよ」と優しく声掛けする様子も視認しました。	食事内容に関心の高い家族もいるようですので、1ヶ月のメニュー表を渡したり、面会で献立写真を観ることができるような工夫を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量の把握や状態に応じてお粥、刻み食等の食事の支援をしている。水分制限がある利用者さんには1日の摂取量をバランスよく配分して提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをし、自分で出来る方は汚れが残っていないか後でチェックする。介助を要する方は職員が介助をしている。口腔ケアの研修会に参加したり、かかりつけ歯科医に相談している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り排尿、排便の確認や排泄パターンを把握している。タイミングを見計らいトイレへの声かけ、誘導をしている	布パンツにパットをあてたい人もいて、トイレに落としてしまうリスク回避のために簡易テープを付ける例もあり、排泄についても本人本位に取り組んでいます。特に便はトイレでおこないたい人が大半のため、間に合うように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れた献立作りや体操、歩行運動を心掛けている。排便パターンにより薬にて排便を促す利用者さんには薬の提供をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まってしまうが希望されれば入浴できるように努めている。拒否がある場合は無理強いしない様にしている	湯は毎日張り、「入りたい」となればいつでも入れる環境をつくり、実際ほほい毎日という人もいます。仲良し同士で湯船に浸かると嬉しい気分が高まって、つい長湯となってしまう例もあり、事業所でも柚子などの時節風呂を提供して楽しみを作っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こたつやソファで休息したりベッドで休まれる方もいる。居室は個室になっており心地良い室温で休めるように温度調整自分だけの空間で安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書により一人ひとりの薬の目的を確認し服薬の支援をしている。薬が変わった時は特に副作用等の症状について注意深く観察するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の世話や畑の手入れ、食器拭きや洗濯物たたみ等自分の役割として張り合いを持って過ごされている。居室で趣味の物作りをしたり他館の知り合いの方を訪問して気分転換が図れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診の帰りに買い物をしたり買い物に行きたいとの希望がある場合は出掛けられるように努めている。又、利用者様の気持ちを家族に伝え外出ができるように努めている	天気が良い日でレクリエーション予定がなく、職員配置にも余裕があれば外気浴をおこなうなかで散歩となり、周辺散策して帰ってきます。そのような成り行き的な取組みですが週1、2回の外気浴が慣行されていて、商店街に洋服や好みの果物を求めて買い物に出ることもあります。	全体での遠出は難しくても、個々に「どんなところに行ってみたいか」は一度確認し、たとえ行けなくても写真や話材提供ができると良いと思います。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはご家族から預かって施設で管理しています。買い物の時はレジでお金を渡し本人が支払う機会を作るようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている利用者さんは自由に電話ができるように支援している。他の方も希望があれば電話で話せるよう支援したり手紙の受け渡しをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花や壁面飾りで季節感を取り入れるように工夫している。光や温度は利用者さんに合わせて調整している。テレビや音楽の音量も時間帯によって調整して居心地良く過ごせるようにしている	収まるべき場所に物が置かれていて整然としており、総じて清潔な共用空間です。布団も陽に当てられ、洗濯物の均等に下がる様子からも職員の几帳面さ、丁寧さが伝わります。折り紙が得意な職員が利用者と創作した楓や銀杏の掲示物は、此処で紅葉狩りができそうな見事さです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテーブルと椅子、籐のベンチ畳の間には掘こたつとソファがありそれぞれがテレビを観たり新聞を読んだり談話をしたり等思い思いの場所で過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や冷蔵庫、扇風機、テレビ、家族の写真等があり居心地良く過ごせるように工夫している	予め洗面台とカーテン付クローゼット、ベッド、エアコンが備わっている居室には、テレビや簡易なチェストを持ち込んでいます。100歳となる利用者は、すでに伴侶も娘さんも見送っていて、他にも家族の旅立ちを送った人は水や花を供え、毎日遺影と向き合って拝んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入り口には大きな文字で表示してある。バリアフリーで手すりがあり身体機能に合わせて歩行や、シルバーカー車イスの移動もできる空間を確保している。身体状況に合わせてベットの高さを調整したり手すりを付け安全に生活できるように配慮している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2376300246		
法人名	有限会社 ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム 東栄の家 (2号館)		
所在地	愛知県北設楽郡東栄町大字本郷字久保田10-7		
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2376300246-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2376300246-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	平成30年11月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム東栄の家は国道151号線沿いとても解りやすく周辺には商店街や保育園イベント広場などがあり大変立地条件が良いのかな所にあります。また、駐在所や消防署も近くにあり安心できる環境です。利用者様はほぼ地元の方が多く、住み慣れた地域でのんびりとその人らしい生活が送れるように支援をし、利用者様に寄り添い安心、満足できることが一番だと考えています。また、職員も地元の人や勤務年数が長い人が多く利用者様やご家族様との信頼関係を築きながらより良い施設を目指すと共に外部、内部の研修に参加して、個々にスキルアップできるように努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「(経済的負担等から)キーパーソンが移設をすると言っても止めて欲しい」と事業所に頼む近親者がいたり、家族アンケートには「此処に入りたいという高齢者は多いと思う」という記述があったり、家族がファン化していることが見える事業所です。『おいでんや』と呼ばれる地域の高齢者支援の集会、東栄町発祥のチェーンソーアート大会や町の文化祭観覧、移動動物園、演芸ショー、町民の芸能まつり等、地域の事業や行事は豊富で、壮健な利用者は多様な集いへ気軽に顔を出すことができます。リビングに1歩足を入れた瞬間にラポールが感じられるほど利用者間の一体感があり、お互いをいたわる気持ちが垣間見えて居心地のよい事業

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちが作った理念「ゆったりと楽しく」「自由にありのまま」「仲間と一緒に暮らす」そんな理念を元に、まずはゆったりと生活出来るよう共有し実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食、地域のイベント等に利用者さんと一緒に出掛け交流している。畑仕事の際に近所の人達と会った時は挨拶を交わしたり会話をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で様々な取り組みや支援等の内容を説明し、理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の条例により3ヶ月に1回の運営推進会議でしたが広域連合になり2ヶ月に1回の会議の場で運営状況を報告し意見を聞きます。また、そこで出た貴重な意見などサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議等に協力してもらったり、メールなどの利用で密に情報交換をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人体制以外は、特別な理由がない限り玄関やユニット間の施錠はしていない。AA課程(施設内研修)で身体拘束について学ぶ機会があり、拘束をしないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ある内部研修(職員会議等)や本部から届く朝礼で虐待の事は勉強しています。虐待はあってはなりません。防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、内部研修等で学んだり、実際に活用されている利用者様もおられ、関係者とは連絡を取り合う状況にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が主に携わっていますが、説明を十分に行ない理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、運営推進会議に参加して頂いたり、利用者様にも計画作成時等に意見を頂き、運営等に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館のカンファレンスの時間や職員会議の場で自由に話が出来よう環境作りをして、職員の意見も参考にし、業務等に活かしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当の支援を行い向上心を持って働けるよう対応を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に12回の内部研修があったり、他市町村等の外部研修にも積極的に参加できるように努め、いろいろな研修確保をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村等主催の研修に参加して同業者との交流をし、質の向上をはかっています。また、多職種研修会にも参加し、ネットワーク作りをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の無理な要望であっても否定しないで気持ちを受け入れ寄り添っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分話し家族の困りごとでこちらで対応できることを伝え安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援と同時に他のサービスの提供により、より一層向上できる支援を目指しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に良い信頼関係を築いており仲良く暮らすよう支えあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外食又は、自宅へ外出して頂いている家族もみえ、本人の最近の様子を家族に伝え、家族と本人を支える良い関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や馴染みの人との取次ぎや交流の場を設けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士の入浴や、席も隣にする中で、他の利用者とも支え合える関係に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過を伺い家族からの相談にのり、これまでの関係を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの意向を聞き、出来る事の実践と困難な事柄については不安にならない様に対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から入居時以上の生活歴など聞き取り生活環境を知ることによってサービスに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その時で体調、心身の状態の変化に目配りをし様子観察をして行く。また、各人の力量に合った対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き現状に添ったケアプラン作成に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に各人の毎日の様子の記録を記入しまた、体調や病院受診結果等詳細に記録し、職員間で情報共有のミーティングを開いて、実践や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況で家族対応の受診や面会頻度が少なくなったり、それらの事をふまえて柔軟なサービス支援に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床やさんに来て散髪して頂いたり、ボランティアの来訪で楽しんだり、地域の催しものに参加して馴染みの方達との出会いの場で交流を図り豊かな暮らしに向けての支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から掛かりつけの医者があり本人家族の要望を受け入れ入居後も信頼している医師の受診を受けている。医師との連携をとっており事業所、家族、医師、本人との適切な関係を築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中での気付き体調の変化を訪問看護師に伝えたり、相談に乗って頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院へ面会に行ったり相談員から連絡を頂いたりして、病状の進展や今後の治療退院の目途など細部に渡り病院側とも密に連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してくると終末期の話、また、今後の方針に関してはご家族の気持ちを大切にしながら、今後の方針を共有しながら関係者にも相談し支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に立ち会った職員も数多くおり、実践力は身につけている。また、応急手当も迅速に行なっている。協力院と連携して対応を行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回職員の少ない夜間想定での避難訓練を実施し、消防員に内容や状況の報告をしている。署員にアドバイスを貰うこともある。防災訓練等に参加し、災害時に必要な体制を築く努力をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の性格持ち前の気質などあり人格を否定しないで、寄り添っている。思いやりのある言葉かけをして信頼関係を築いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの意向を進めるのではなく生活の中から、本人の意向を上手に聞き出しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化で横になりたい方は、ベッドで休んで頂き無理強いはいしない様になっている。好きな利用者の部屋で話したい方、新聞を読みたい方それぞれの希望に沿って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に添った洋服選びが出来ているか気候に合った枚数であるか？また、着方が正しく来ているか、外出に合った物を選んでいくなど、髭や爪のチェックをし出来ていないところの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で出来るもの、野菜の皮むきや、根取りなど行なっている。 食事前に今日のメニューの紹介をしたり食べ終わったときに量を聴いたり、今度は何を食べたいなど聞き出して次への楽しみの持てる食事作りにつなげています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調によりミキサー食や、お粥であったり、水分制限の方が居たり、肉が嫌いな方など各人の状態を把握した食事の提供に心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後義歯の方の義歯の洗浄促し出来ない方の介助を行ない口腔内の清潔の保持に努めている。ポリドントを行なっています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	概ねパターンを把握している排泄チェック表を用いたり、タイミングを見計らって声かけや、誘導でトイレでの排泄をして頂けるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善の繊維質のある食材を取り入れたり、朝に牛乳やヨーグルトの提供をしたり便通を良くする工夫をしている。医師にも受診時に便秘の回数など告げ本人にあった物を提供して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う利用者同士の入浴や熱い風呂ぬるい風呂と好みに合わせたと対応をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて布団や空調の入れ替え体調に応じて気持ちよく眠られる環境を整え個々の体調に応じて安心して入眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の常用している薬の把握の理解をしており、副作用の把握をして受診時に医師に様子を伝え次の処方に繋げています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や協力して行えることの見極めをし、生活リハビリや外出支援をして気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の施設で行なっているイベントに参加したり、家族と外食したり、知り合いの方に出会いに行ったりとそれぞれ家族の協力と出掛けられる支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に持っていたい方にはお守り程度に持っていますと家族より断りがあります。自己管理が出来ない場合は、こちらで預かることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話をかけて安心して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏の暑い時は、遮光カーテンを備えたり、床は常に転ぶ要因を作らない様に環境整備を行っています。汚物の臭いなど防ぐように気を付けゴミが溜まったら外の収集ボックスに入れ、空調外部の音の遮断心地良い室温湿度など考慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな利用者同士でお話ができるように一緒のお部屋でくつろぐ機会を作ったり、ソファで好きな番組を一所に見られるよう誘導したり一人で居室でのんびりして頂く様それぞれにあった居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で自分で愛用していた寝具類や思い出の写真や、家具等置いて居心地良く暮らせる環境作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の各人の部屋には大きく名前が這っており、トイレ浴室も大きく場所が解るようにしています。また、バリアフリー化してあり動線には、手すりが付けてあります。不自由所は、手助けし、自分で出来る事は本人に促し、自立支援を行なっています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2376300246		
法人名	有限会社 ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム 東栄の家 (3号館)		
所在地	愛知県北設楽郡東栄町大字本郷字久保田10-7		
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2376300246-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2376300246-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム東栄の家は国道151号線沿いとても解りやすく周辺には商店街や保育園イベント広場などがあり大変立地条件が良いのかな所にあります。また、駐在所や消防署も近くにあり安心できる環境です。利用者様はほぼ地元の方が多く、住み慣れた地域でのんびりとその人らしい生活が送れるように支援をし、利用者様に寄り添い安心、満足できることが一番だと考えています。また、職員も地元の人や勤務年数が長い人が多く利用者様やご家族様との信頼関係を築きながらより良い施設を目指すと共に外部、内部の研修に参加して、個々にスキルアップできるように努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「(経済的負担等から)キーパーソンが移設をすと言っても止めて欲しい」と事業所に頼む近親者がいたり、家族アンケートには「此処に入りたいという高齢者は多いと思う」という記述があったり、家族がファン化していることが見える事業所です。『おいでんや』と呼ばれる地域の高齢者支援の集会、東栄町発祥のチェーンソーアート大会や町の文化祭観覧、移動動物園、演芸ショー、町民の芸能まつり等、地域の事業や行事は豊富で、壮健な利用者は多様な集いへ気軽に顔を出すことができます。リビングに1歩足を入れた瞬間にラポールが感じられるほど利用者間の一体感があり、お互いをいたわる気持ちが垣間見えて居心地のよい事業

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちが作った理念「ゆったりと楽しく」「自由にありのまま」「仲間と一緒に暮らす」そんな理念を元に、まずはゆったりと生活出来るよう共有し実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食、地域のイベント等に利用者さんと一緒に出掛け交流している。畑仕事の際に近所の人達と会った時は挨拶を交わしたり会話をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で様々な取り組みや支援等の内容を説明し、理解を頂いている。ホームの新聞「ありのまま」で活用内容を発信したり、状況の変化がある場合には個別に不定期でお便りを入れています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の条例により3ヶ月に1回の運営推進会議でしたが広域連合になり2ヶ月に1回の会議の場で運営状況を報告し、意見を聞きます。また、そこで出た貴重な意見などサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議等に協力してもらったり、メールなどの利用で密に情報交換をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人体制以外は、特別な理由がない限り玄関やユニット間の施錠はしていない。AA課程(施設内研修)で身体拘束について学ぶ機会があり、拘束をしないケアに努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ある内部研修(職員会議等)や本部から届く朝礼で、虐待のことは勉強しています。虐待はあってはなりません。防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、内部研修で学んだり、実際に活用されている利用者様もおられ、関係者とは連絡を取り合う状況にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が主に携わっていますが、説明を十分に行い理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、運営推進会議に参加して頂いたり、利用者様にも計画作成時等に意見を頂き、運営等に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館のカンファレンスの時間や職員会議の場で自由に話が出来よう環境作りをして、職員の意見も参考にし、業務等に活かしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には資格手当の支援を行い向上心を持って働けるよう対応を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に12回の内部研修があったり、他市町村等の外部研修にも積極的に参加できるように努め、いろいろな研修確保をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市町村主催の研修に参加して同業者との交流をし、質の向上をはかっています。また、多職種研修会にも参加し、ネットワーク作りをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり訪問することで、入居前から関係作りをしている。入居後は他の利用者様との間に入り、共通の話題などをすることで少しずつ環境に慣れて頂けるよう橋渡しをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている点を聞き出し何を求めているのかを知り、サービスに反映させるように努めている。入居後暫くは電話で様子などを伝えたりして、ご家族様の不安の軽減に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今おかれている状況や状態、過去に遭ったご本人の情報を知り、希望や要望に沿った対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その場その時を共有する同じ人として、一日を穏やかにありのまま生活できるよう接している。生活の中で出来る事を共に行ない、良好な関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には現状を理解して頂けるよう随時話をし、必要なこと(面会や外出等)があれば協力して頂いている。現状を知って頂くため、家族との繋がりを切らないため、病院受診の付き添いを可能な限りお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知り合い同士が入居している方も多く、ホーム内で交流を持てるよう、他号館との交流を持っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性や心身の状態を考えて席を決め、気楽に話ができるようにしている。また、良い環境を保てるよう橋渡しをする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々電話や訪問があると退去後の様子を尋ねたり、気楽に相談して貰えるような関係作りをしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの際は本人に同席して貰い、希望などを聞いている。また、普段からどうしたいのかを会話の中で聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は入居時にご家族様より聞き取りをしているが、細かくはわからないことが多い。日常生活の中での会話で聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の動作、行動、会話などから、その時々のお気持ちや状態を知るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な話し合いだけでなく、状態の変化がみられる場合などは随時話し合いを行ない、必要な場合はご家族様とも相談をして介護計画の見直しなどを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入、特別なことがある場合は詳細記録に記入をし、職員間で情報共有している。今必要な情報でもあり、将来必要となる情報にもなる。細かな申し送りはノートにて情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに合わせて、ご家族様の協力を得ながら外出や外泊をしたり、買い物支援を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内で行なわれるイベントに出掛けたり、花見や紅葉狩りなど季節を感じに出掛けている。また、地域からのボランティアによる催しなど、楽しく参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った病院での受診を支援している。かかりつけ医の采配により適切な医療が受けられるよう、病院・事業所との関係作りもしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診に戸惑う時は協力医に相談したり、週に1回看護師が出勤する時に相談し、アドバイスを貰ったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と情報を交換しながら早期の退院につながるよう病院関係者とは連絡を取り合い、密な関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してくると終末期の話、また、今後の方針に関してはご家族様の気持ちを大切にしながら、今後の方針を共有しながら関係者にも相談し支援にも努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に立ち会った職員も数多くおり、実践力は身につけている。また、応急手当も迅速に行ない、協力病院と連携して対応をしている。職員1名が応急手当普及員となり必要に応じて活動している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回職員の少ない夜間想定での避難訓練を実施し、消防員に内容や状況の報告をしている。署員にアドバイスを貰うこともある。防災訓練等に参加し、災害時に必要な体制を築く努力をしている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や過去の生き方を知り、その人にあった声かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方には、話をする中で何を求めているかを感じ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示がうまく出来なかったり、感情が不安定な方もいるため、すべてが希望ではないが、何をしたいかなどは聞き、可能な限り希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	慣れ親しんだ衣類や小物を持参して頂いたり、希望の衣類や生活に必要な小物を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、何か食べたいか希望を聞き、可能な限りメニューに取り入れている。女性が多いため、献立を作る際には必要な材料と一緒に考えたり、料理の話をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜が多いメニューで栄養バランスを考えている。減量糖制限のある方はそれを考慮して提供している。水分摂取は食事とお茶の時間で確保し、それ以外は欲しい時に飲めるよう準備がしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをし、自分で出来る方は汚れが残っていないか後でチェックする。口腔ケアの研修会に参加したり、かかりつけ歯科医に相談をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握している。排泄チェック表を用いたり、タイミングを見計らって声掛けや誘導でトイレでの排泄をして頂けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	発酵食品や、繊維質の物を多く食べて頂ける用メニューを工夫している。便秘体質で便秘薬が処方されている方は、排泄チェック表を用いて排泄状況を把握して薬を飲んで頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別でゆったりと入れる時間設定をしている。お湯の温度の好み、その日の気分を考慮して入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様それぞれのペースで過ごして頂いている。居室の空調や衣類、寝具の選択など、安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や用量までは理解しきれていないが、処方されている薬については理解に努めている。身体的に変化がある場合、主治医にその変化を報告し早めの対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることで好きなことはどんどんして頂き、体操やレクリエーションもその日の状況で内容を決めて行っている。外気浴も気分転換に良いので、短時間でも出られる日は出るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全ての希望に沿うことは困難であるが、ご家族様と話し合い外出(定期・不定期)をされている方もいる。イベントなどがある時は希望者をお連れしたり、職員が出かける時に気分転換で同伴したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元には持っていたい方には、高額でない程度に持って頂き、希望の物があれば職員が購入しに行くこともある。自己管理が困難になってきたら、預かって管理する場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある場合は可能な限り電話をかけ、かかってきた電話にも出て頂いている。ご家族様との繋がりを絶たないよう心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年を通して、日差しや空調には特に気を付けている。掲示物は季節にあったもの、食事は旬の食材などで季節を感じながら楽しくなるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にそれぞれの席は決まっているが、コミュニケーションがとれるよう自由に座って頂いている。独りで過ごしたい時は居室やソファなど、その時の気分で好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みのある物を持ってきて頂き、少しでも居心地良く過ごせるよう工夫をしている。また、ご家族様に自宅から持って来て頂いたり、希望される物を購入して頂くこともある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などは場所の表示をわかりやすく大きくし、行きたい場所に自分で行ける工夫をしている。また、動線の安全確保のため環境整備をしている。		